

富山大学 学報

第265号

目 次

関係法令	1	叙位・叙勲	8
学内規則	2	教育学部附属小学校長の改選	8
富山大学工学部構内交通規制に関する		経営短期大学部主事の改選	8
暫定要項を廃止する要項	2	学術講演会の開催	9
富山大学工学部構内交通規制に関する		海外渡航者	9
暫定実施細目を廃止する細目	2	昭和60年度富山大学事務電算化要員養成研修会	9
諸会議	3	学内レクリエーション〈ソフトボール大会〉	10
学 事	4	昭和60年度富山共済組合支部連絡協議会	
昭和61年度富山大学学生募集要項	4	ボーリング大会	11
人事異動	8	寄稿〈海外教育事情視察に参加して〉	11
学内諸報	8	職員消息	14
		主要行事	15

関係法令

	(官報掲 載月日)		(官報掲 載月日)
政 令		規 則	
○所得税法施行令の一部を改正する政令 (301)	11・19	○日本学術会議会則の一部を改正する規則 (日本学術会議2)	11・2
省 令		○人事院規則10-4(職員の保健及び安全 の保持)の一部を改正する規則(人事院 10-4-1)	11・30
○児童手当法施行規則の一部を改正する 省令(厚生43)	11・20	○人事院規則17-0(管理職員等の範囲)	

(官報掲
載月日)

(官報掲
載月日)

の一部を改正する規則（人事院17-0-3）

11・30

する件（文部127）

11・2

○郵便法等の規定に基づき郵便番号を定める件の一部を改正する件(郵政908)

11・19

告 示

○科学研究費補助金取扱規程の一部を改正

学 内 規 則

富山大学工学部構内交通規制に関する暫定要項を廃止する要項

富山大学工学部構内交通規制に関する暫定要項を廃止する要項を次のとおり制定する。

昭和60年11月22日

富山大学長 大 井 信 一

富山大学工学部構内交通規制に関する暫定要項を廃止する要項

富山大学工学部構内交通規制に関する暫定要項（昭和53年7月21日制定）は、廃止する。

▶富山大学工学部構内交通規制に関する暫定要項を廃止する要項の制定理由

工学部の五福地区への移転が完了したため。

附 則

この要項は、昭和60年11月22日から実施する。

富山大学工学部構内交通規制に関する暫定実施細目を廃止する細目

富山大学工学部構内交通規制に関する暫定実施細目を廃止する細目を次のとおり制定する。

昭和60年11月22日

富山大学長 大 井 信 一

富山大学工学部構内交通規制に関する暫定実施細目を廃止する細目

富山大学工学部構内交通規制に関する暫定実施細目（昭和53年9月1日制定）は、廃止する。

▶富山大学工学部構内交通規制に関する暫定実施細目を廃止する細目の制定理由

工学部の五福地区への移転が完了したため。

附 則

この細目は、昭和60年11月22日から実施する。



諸 会 議

第6回大学案内編集委員会（11月2日）**（審議事項）**

- (1)昭和61年度富山大学案内の編集について

富山大学入学試験に関する高等学校と大学との懇談会

（11月5日）

（懇談会次第）

- (1)昭和61年度富山大学入学試験について
- (2)各学部・学科(課程)及び経営短期大学部等の紹介
- (3)懇談

第6回入学試験管理委員会（11月12日）**（報告事項）**

- (1)大学案内について

（審議事項）

- (1)昭和61年度富山大学学生募集要項(案)について
（継続）

第6回学園ニュース編集委員会（11月15日）**（審議事項）**

- (1)第50号学園ニュースの編集について

第4回補導協議会（11月15日）**（報告事項）**

- (1)文化部会1号委員(部会長)について
- (2)体育系サークルリーダー研修会について
- (3)第10回体育祭について

（審議事項）

- (1)昭和60年度在来生合宿研修(スキー講習会)について
- (2)厚生補導研究会について
- (3)体育部会1号委員(部会長)の選出方法について
- (4)学生の海外旅行について

第4回授業料等減免選考委員会（11月15日）**（審議事項）**

- (1)昭和60年度後期分授業料免除について

第6回学寮補導委員会（11月19日）**（報告事項）**

- (1)寮生との話し合いの結果について

（審議事項）

- (1)受験生宿泊について

第3回大学院委員会（11月22日）**（審議事項）**

- (1)昭和61年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)第2次学生募集要項について

第9回評議会（11月22日）**（報告事項）**

- (1)第43回東海・北陸地区国立大学長会議について
- (2)国立大学協会第77回総会について
- (3)昭和61年度富山大学案内について
- (4)昭和61年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)第2次学生募集要項について
- (5)学生の動向について

（審議事項）

- (1)富山大学工学部構内交通規制に関する暫定要項を廃止する要項の制定(案)について
- (2)昭和61年度富山大学学生募集要項について
- (3)昭和61年度富山大学文学専攻科,教育専攻科及び経済学専攻科の学生募集要項について

第6回入学者選抜方法研究委員会専門委員会

（11月25日）

（審議事項）

- (1)入学者選抜方法の改善に伴う昭和60年度以降(第5期分)の調査研究事項(テーマ)について

第3回附属図書館商議会（11月26日）**（報告事項）**

- (1)工学部分館廃止について
- (2)地図情報室小委員について

(審議事項)

(1)次期図書館長候補者の選定方法及び日程について

(審議事項)

(1)国際交流基金について

第2回国際交流委員会 (11月29日)**(報告事項)**

(1)昭和60年度本学と遼寧大学との教官の学術交流について

第6回事務協議会 (11月29日)**(議 題)**

(1)当面の諸問題について

学 事

昭和61年度富山大学学生募集要項

本学は、昭和61年度の富山大学学生募集要項を12月7日(土)に次のとおり発表しました。

昭和61年度富山大学学生募集要項 (抜粋)**1 募集人員**

- 人文学部 170名 (人文学科90名, 語学文学科80名)
- 教育学部 240名 (小学校教員養成課程 140名, 中学校教員養成課程50名, 養護学校教員養成課程20名, 幼稚園教員養成課程30名)
- 経済学部 300名 (経済学科 120名, 経営学科 120名, 経営法学科60名)
- 理学部 180名 (数学科40名, 物理学科40名, 化学科40名, 生物学科30名, 地球科学科30名)
- 工学部 305名 (電気工学科50名, 工業化学科45名, 金属工学科40名, 機械工学科50名, 生産機械工学科40名, 化学工学科40名, 電子工学科40名)

(注) 1 経済学部の募集人員(300)には推薦入学による合格予定人員を含む。

2 理学部物理学科の募集人員(40)には第2次募集人員(10)を含む。

3 募集人員の増員について

本学は上記募集人員について増員(人文学部20名程度, 経済学部10名程度, 理学部20名程度, 工学部21名程度)を計画している。

なお, 理学部においては, 20名程度の増員を計画しているが, このうち物理学科については, 7名程度を増員し, その

うち2名程度を第2次募集人員の増とすることを計画している。

昭和61年度予算の関係で現在は未確定であるが, この詳細は政府予算案の決定後(昭和61年1月頃)発表する予定であるので注意すること。

4 経済学部における改組計画について

本学では, 昭和61年度から経済学部(経済学科, 経営学科, 経営法学科)を改組して「昼間主コース」及び「夜間主コース」の新設並びにこれに伴う学生定員の増(改組に伴う増であって上記3の募集人員増のほかに増加する分である)を計画している。

この詳細については, 昭和61年度政府予算案決定後(昭和61年1月頃)に「追加募集要項」を発表する予定であるので経済学部志願者は, 特に注意されたい。

2 出願期間

昭和61年2月8日(土)から2月15日(土)まで。(15日消印有効)

受付は午前9時から午後5時まで。ただし, 土曜日は正午までとし, 日曜日及び祝日は受け付けない。

3 検査期日

昭和61年3月4日(火)

(教育学部小学校・養護学校・幼稚園教員養成課程の実技検査は、3月5日(水))

○理学部検査場 理学部(富山市五福)
○工学部検査場 工学部(富山市五福)

4 検査場

- 人文学部検査場 教養部(富山市五福)
- 教育学部検査場 教育学部(富山市五福)
- 経済学部検査場 経済学部(富山市五福)

5 入学者の選抜方法

入学者の選抜は、共通第1次学力試験、第2次の学力検査、調査書及び健康診断を総合して判定する。

6 検査教科・科目

学 部	学科・課程(専攻教科)	検 査 教 科 ・ 科 目		
		教 科	科 目	
人文学部		外国語	国語Ⅰ・国語Ⅱ 英語Ⅱ・英語ⅡB、ドイツ語、朝鮮語、中国語、ロシア語のうちから英語は2、その他は1科目選択	
教育学部	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程	国語 外国語 芸術 保健体育	国語Ⅰ・国語Ⅱ 代数・幾何、基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB 音楽実技 美術実技 体育実技	
	中学校教員養成課程	(国語, 社会, 英語)	外国語	国語Ⅰ・国語Ⅱ 英語Ⅱ・英語ⅡB } 1教科選択
		(数学, 理科, 家庭, 技術)	外国語	代数・幾何, 基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB } 1教科選択
		(音 楽)	芸術	音楽実技
		(美 術)	芸術	美術実技
		(保 健 体 育)	保健体育	体育実技
経済学部		外国語	代数・幾何, 基礎解析 英語Ⅱ・英語ⅡB 2科目 又はドイツ語 1科目選択 } 1教科選択	
理学部	数 学 科	数 学	代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計(統計は除く)	
	物 理 学 科	数 理 学 科	代数・幾何, 基礎解析 物理	
	化 学 科	数 理 学 科	代数・幾何, 基礎解析 化学	
	生 物 学 科	数 理 学 科	代数・幾何, 基礎解析 物理, 化学, 生物のうちから1科目選択	
	地 球 科 学 科	数 理 学 科	代数・幾何, 基礎解析 物理, 化学, 地学のうちから1科目選択	
工学部	電 機 工 学 科 機 械 工 学 科 生 産 機 工 学 科 電 子 工 学 科	数 理 学 科	代数・幾何, 基礎解析 物理	
	工 業 化 学 科	数 理 学 科	代数・幾何, 基礎解析 化学	
	金 属 工 学 科 化 学 工 学 科	数 理 学 科	代数・幾何, 基礎解析 物理, 化学のうちから1科目選択	

(注) 1 教育学部志願者

(1) 第2志望とすることができる課程、専攻教科は次のとおりである。

第1志望の課程(専攻)	第2志望とすることができる課程(専攻)
小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程	小学校教員養成課程、養護学校教員養成課程及び幼稚園教員養成課程相互間の他に 国語で受験する者は、中学校教員養成課程(国語、社会、英語) 数学で受験する者は、中学校教員養成課程(数学、理科、家庭、技術) 英語で受験する者は、中学校教員養成課程(国語、社会、数学、理科、家庭、技術、英語)
中学校教員養成課程 (国語、社会、英語)	国語で受験する者は、中学校教員養成課程(国語、社会、英語)相互間 英語で受験する者は、中学校教員養成課程(国語、社会、英語)相互間の他に 中学校教員養成課程(数学、理科、家庭、技術)
中学校教員養成課程 (数学、理科、家庭、技術)	数学で受験する者は、中学校教員養成課程(数学、理科、家庭、技術)相互間 英語で受験する者は、中学校教員養成課程(数学、理科、家庭、技術)相互間の他に 中学校教員養成課程(国語、社会、英語)

○中学校教員養成課程(音楽、美術、保健体育)は、第2志望を付すことはできない。

2 工学部志願者

(1)「化学」で受験する者には、工業化学科、金属工学科及び化学工学科の3学科間でのみ第2志望を認める。

(2)「物理」で受験する者には、工業化学科を除く6学科にわたり第2志望を認める。

7 志願者カード

本学所定の用紙により、志願者カードの記入上の注意を参照のうえ必要事項を記入・マークして入学願書とともに提出すること。

8 共通第1次学力試験及び第2次の学力検査の配点

教科等		区 分	国 語	社 会	数 学	理 科	外国語	実 技 査	小 計	合 計
学部(学科・課程)										
人 文 学 部		共通第1次	100	100	100	100	100		500	950
		第2次	250				200		450	
教 育 学 部	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程	共通第1次	200	200	200	200	200	200	1,000	1,400
		第2次	200		200	200	200		400	
	中学校教員養成課程 (国語、社会、英語) 専攻	共通第1次	200	200	200	200	200		1,000	1,400
		第2次	400				400	400		
中学校教員養成課程 (数学、理科、家庭、 技術)専攻	共通第1次	200	200	200	200	200		1,000	1,400	
	第2次			400	400	400		400		
中学校教員養成課程 (音楽、美術 保健体育)専攻	共通第1次	200	200	200	200	200		1,000	1,400	
	第2次						400	400		
経 済 学 部		共通第1次	100	100	100	100	100		500	800
		第2次			300		300		300	
理 学 部	数 学 科	共通第1次	200	200	200	200	200		1,000	1,400
		第2次			400				400	
物 理 学 科 化 学 科 生 物 学 科 地 球 科 学 科	共通第1次	200	200	200	200	200	200		1,000	1,400
	第2次			200	200				400	
工 学 部		共通第1次	100	100	100	100	100		500	900
		第2次			200	200			400	

9 合格者発表

昭和61年3月13日(木) 午前9時

本学(富山市五福)に掲示し、かつ、本人に通知する。

10 経済学部推薦入学学生募集要項

(1) 募集人員

15名以内

(2) 出願資格及び推薦の要件

高等学校の専門教育を主とする学科(いわゆる職業科)を昭和61年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当する者

ア 人物、学力、健康において優れ、かつ、勉強意欲が旺盛であり、高等学校長が責任をもって推薦できる者

イ 高等学校の最終年次における成績が所属学科の上位10%以内の者

(3) 推薦人員

1 高等学校につき2名以内

(4) 出願期間

昭和61年1月6日(月)から1月11日(土)正午までに必着のこと。

受付は午前9時から午後5時まで。ただし、土曜日は正午までとし、日曜日は受け付けない。

(5) 入学者の選抜方法

推薦入学者の選抜は、共通第1次学力試験及び第2次の学力検査を免除し、推薦書、調査書、小論文及び面接の結果を総合して判定する。

ア 選考期日

昭和61年1月22日(水)下記により小論文を課し、面接を行う。

なお、小論文作成のための資料には、英文が含まれる。

時間	9:00	9:30~11:10	13:00~
事項	集 合	小 論 文	面 接

イ 選考場所

富山大学経済学部(富山市五福)

(6) 合格者発表

昭和61年3月13日(木)午前9時本学(富山市五福)に一般の受験者と区別なく同時に掲示し、かつ、本人に通知する。

11 理学部第2次学生募集要項

理学部物理学科では、入学定員の一部についてあらかじめこれを留保し、第2次募集を行う。

(1) 募集人員

理学部物理学科10名

(注) 募集人員増について

理学部においては、20名程度の増員を計画しているが、このうち物理学科については、7名程度を増員し、そのうち2名程度を第2次募集人員の増とすることを計画している。

昭和61年度予算の関係で現在は未確定であるが、この詳細は政府予算案の決定後(昭和61年1月頃)発表する予定であるので注意すること。

(2) 出願資格

大学入学資格を有し、昭和61年度共通第1次学力試験の全教科を受験した者で、かつ、いずれの国立大学にも合格していない者

(3) 出願期間

昭和61年3月22日(土)から3月25日(火)午後5時までに必着のこと。

受付は、午前9時から午後5時まで。ただし、土曜日は正午までとし、日曜日は受け付けない。

(4) 入学者の選抜方法

入学者の選抜は、共通第1次学力試験、調査書及び健康診断を総合して判定する。

ア 第2次の学力検査

第2次募集では、第2次の学力検査は行わないが、入学後の授業は、数学(代数・幾何、基礎解析)及び物理が履修されていることを前提に開始する。

イ 共通第1次学力試験の配点

教科	国語	社会	数学	理科	外国語	計
配点	200点	200点	400点	400点	200点	1,400点

(5) 合格者の発表

合格者は、昭和61年3月29日(土)午前9時本学(富山市五福)に掲示し、かつ、本人に通知する。

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採用	60. 12. 1	小 島 敦 子		事務補佐員(経済学部)	富山大学長
併 任	60. 11. 16	林 良 重	教授(教育学部)	教育学部附属小学校長 (60. 11. 16~61. 3. 31)	文 部 大 臣
公の名称 の消滅	"	野 村 昇	" (")	教育学部附属小学校長事務 取扱を免ずる	"

学 内 諸 報

叙 位・叙 勲

教育学部教授大塚恵一氏は、昭和60年10月4日逝去(享年58才)されましたが、同氏の生前の功績に対し、同日付けで正四位に叙され、勲三等瑞宝章が授与され

ました。

12月3日学長室において伝達式が行われ、学長から位記及び勲記・勲章が、遺族に手渡されました。

教育学部附属小学校長の改選

教育学部附属小学長大塚恵一教授の急逝に伴い、教育学部教授会は、10月30日に次期附属小学校長候補者の選挙を行い、その結果、林 良重教授が新しく選出されました。任期は、昭和60年11月16日から昭和61年3月31日まで。

林 教授は、昭和18年9月東京薬学専門学校を卒業後、昭和25年6月富山県公立学校教員、同年38年4月東京教育大学教育学部附属盲学校教員、同53年4月富山大学教育学部助教授を経て、同55年5月同教授となり今日に至っている。担当は、理科教育、富山県出身。

経営短期大学部主事の改選

松嶋道夫経営短期大学部主事の任期が昭和60年12月31日に満了することに伴い、経営短期大学部教授会は、11月14日に次期主事候補者の選挙を行った。その結果、

現職の松嶋道夫教授が再選されました。任期は、昭和61年1月1日から2年間。



学術講演会の開催

「徐寿と中国近代化学史」を中心に、中国化学史研究の楊根(ヨウ・コン)清華大学副教授の講演会が去る11月18日(月)、教育学部の附属教育実践研究指導センターで行われました。

これは、日中科学者交流事業の一環として来日中の同氏が、実験考古学に関する日中共同研究を本学教育学部林教授と行うことになったのを機会に立寄られたため開催されたもので、教育学部の教官、学生をはじめ理学部、工学部の教官など約60名が熱心に聴講されました。

中国近代化学の祖といわれる徐寿に関する研究、青銅器鉄器などの化学分析を行うと共に、古陶磁、天目

釉の復元製作を行った研究成果などスライドによる説明を加えながら話されました。



海 外 渡 航 者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	理学部	助手	金森 寛	アメリカ合衆国	遷移金属錯体の分光学的研究のため	60. 11. 1) 61. 9. 30
海外研修旅行	〃	教授	小林 貞作	タイ	第5回アジア大洋州育種学会議出席発表とタイ国農業事情調査のため	60. 11. 24) 61. 9. 30

昭和60年度富山大学事務電算化要員養成研修会

昭和60年度富山大学事務電算化要員養成研修会が、去る8月5日(月)から11月22日(金)のうち20日間富山大学情報処理センターにおいて実施されました。

本研修は、富山大学における事務電算化を推進するに当たり、電算化要員を養成し、併せて情報処理に関する資質の向上を図ることを目的としたもので、受講者、講師及び研修日程は次のとおりです。

1. 受講者 (別表のとおり)

2. 講師 情報処理センター
高井正三

3. 研修日

8月5日、6日、7日、8日、9日、
9月9日、10日、11日、12日、13日、
10月21日、22日、23日、24日、25日、
11月18日、19日、20日、21日、22日

(別表)

所 属	官職名	氏 名	所 属	官職名	氏 名
富 山 大 学 人事課 任用係	文部事務官	朝野 真	富 山 大 学 保健管理センター	文 部 技 官 (栄養士)	山本 郁子
富 山 大 学 主計課 管財係	文部事務官	北 治夫	富 山 大 学 教養部 教務係	文部事務官	石川 裕史
富 山 大 学 経理課 給与係	文部事務官	伏喜 俊至	富 山 大 学 教養部 学生係	文部事務官	船崎 浩之
富 山 大 学 施設課 工営係	文 部 技 官	明翫 充	富 山 大 学 附属図書館 受入係	文部事務官	庄司 正文
富 山 大 学 学生課 教務係	文部事務官	川上 重信	富 山 大 学 附属図書館 閲覧係	文部事務官	小原 俊一
富 山 大 学 学生課 入学試験係	文部事務官	寺林 忠男	富山工業高等専門学校 学生課 図書係	文部事務官 (図書係長)	田中大四郎
富 山 大 学 厚生課 厚生係	文部事務官 (厚生主任)	安西 修三	富山商船高等専門学校 学生課 図書係	文部事務官 (図書係長)	山田 正芳

学内レクリエーション

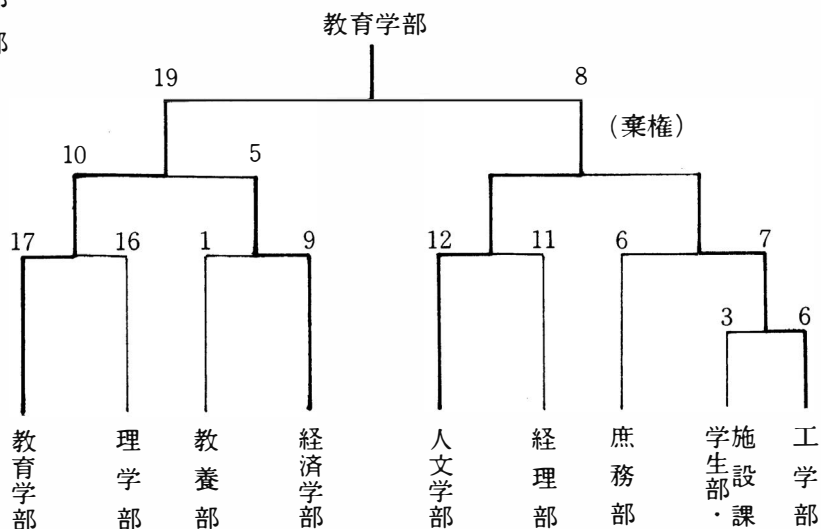
ソフトボール大会

本学レクリエーション委員会体育部会野球班主催による昭和60年度部局対抗ソフトボール大会が、去る9

月17日(火)から11月21日(木)までの間第2グラウンドで実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

優 勝 教育学部
次 勝 人文学部



昭和60年度富山共済組合支部連絡協議会ボーリング大会

去る11月30日(土)にトヤマゴールデンボウルにおいて、昭和60年度富山共済組合支部連絡協議会ボーリング大会が、18機関(72名)の参加により実施されました。

本学からは、4名1チームが出場しましたが、団体においては、惜しくも富山市職員チームに敗れ、次勝に終わりました。

成績については、つぎのとおりです。

団 体

優勝 富山市職員

次勝 富山大学

3位 富山労働基準局

個 人

1位 山本幸子(富山市職員) 562点

2位 大重一夫(富山労働基準局) 549点

3位 川上重信(富山大学) 544点

寄 稿

海外教育事情視察に参加して

附属幼稚園副園長 島 木 嘉 子

このたび文部省海外教育事情視察団の一員として25日間の海外研修旅行に参加し、去る11月19日全日程を無事終えて帰りました。訪問国はカナダ、アメリカ、スペイン、西ドイツ、フランスの5ヶ国(うち——印は学校訪問国)、各国都市に3～5泊の短い滞在でしたのと、旅馴れないために、その時は大変慌ただしい急ぎの旅であるように思えましたが、今ふりかえてみますと、いろいろ見聞したことが思い起こされて、充実した得難い日程だったことに気付かされております。

さて、帰国のご挨拶に伺いました際、「このたびのことを何か…」と求められまして気軽に引き受けてしまいました。実のところ帰国以来諸事に追われる有様で頭の中はもちろん記録もまだ整理できずしております。このような有様ですので本文は印象を主にした散文となりますことをあらかじめお許しいただきたく存じます。

○バンクーバー(カナダ)

訪問国の中で一番長く5泊の滞在。最初の訪問国でもあり、特に学校教育には関心をもって出かけた。学校訪問に先立って教育委員会を訪ねたが、用意された資料の中に日本語のパンフレットが添えられているのに驚く。しかしそれは視察国のために特別用意されたものではなく、この地に移住し就学している子供や家族のためのものであった。同じ内容で14ヵ国語で作成

されており、保護者に配られて学校教育に対する理解と協力が求められるとのことである。なお学校現場ではこの問題が更に深刻な状況にあるように見てとれた。

幼稚園では言葉の習得が早く、半年位で日常語をマスターするとのことである。幼稚園は1日2時間半、訪問園では午前と午後の2部指導を行っている。丁度参観した園では20名でボールの的当て遊びをして楽しんでいる所であった。教育方針は「自主課題を重んじる」ということであったが、短時間の参観では特にそうした配慮を見てとることはできなかった。

小学校は1912年創立の伝統をもつ学校(DAVID LIVINGSTONE SCHOOL)。47ヶ国の子供たちが就学しているため、言葉の教育が全てに先んじて行われていること、更にまた40%の子供が母子家庭である等を見聞し、唯々、先生方のご苦労を思った。案内して下さった校長先生が出合う子供たちに親しみをもって声をかけられる姿が印象的であったが、参観後の懇談会で「私は父親の役目も果たさなければならない」といわれて深く共感するものがあった。

中等学校としてSIR CHARLES TUPPER SECONDARY SCHOOLを参観。職業指導に力を入れているとのこと、さすがにその施設設備は充実したものであった。中でも技術科では金工、木工、機械、各々に広い特別教室を備えている。外に通じるフロアで建物

らしいものを男女生徒が組み立てているので何うと、それは一般家庭からの注文を受けてガレージを作っているのだった。指導教師は町の本職の大工さんである。ランチタイムとなり学校の食堂でご馳走になる。メニューも豊富、ボリュームたっぷり、それは皆生徒が交替で当たっている。朝の材料準備、次いで調理、そして昼の盛りつけ、サービス等に役割が分かれているのだということだった。実習と実益を併せた合理的な教育の在り方は興味深かった。

話は変わるが、海外旅行という“水”のことで注意を受けることが多かったが、バンクーバーでは全く心配がなく逆に日本より水は美味しいのではないかとさえ思った。果物は豊富で安価、食事は楽しみの1つで、かに、えび、貝、かき、そしてロブスターにサーモン等、海の幸がいっぱいでしかもボリュームたっぷり、



うれしい悲鳴をあげて夕食を楽しんだことが懐かしく思い出される。

○次の訪問国はボストン(アメリカ)、3泊の滞在というものの到着が晩の7時半だから中2日が行動日である。学校訪問の予定がないので気持ちは楽である。ボストンでのことは何とんでもボストン交響楽団の演奏をその地のシンフォニーホールで聴くことができたことをあげたい。幸いにもホールは宿泊ホテルから数分の所に在った。ボストン交響楽団は日本出身の小沢征爾氏が率いる一流のオーケストラである。当日の演奏指揮は小沢征爾その人でなくちょっと残り残念ではあったが、立派なホールで貴婦人、紳士と同席で音楽を鑑賞できるなど感激であった。曲目はロバートシューマンの“Das Paradies und die Peri”コーラスとオーケストラが美事に調和した調べにこれまでの緊張も次第にはぐれていくようで心地よかった。他にボストン美術館を訪ねたことも印象深い。ギリシャ時代の遺跡をそのまま運んで来たようなスケールの大きい展示に

圧倒されながら更にはローマ時代の美術品にも見とれる。とにかくその規模の大きさは圧巻という他はない。今思い出しても苦笑させられるのは、レキシントンへの半日ツアーに参加した事である。自由行動を有意義にと願って参加したのに、バスのガイドが全て英語(当然のことだが)だったため、終始要領を得ぬままで行動することになる。アメリカ独立革命の戦跡という程度の理解でツアーに同行した軽率さを大いに反省したことであった。

○第三の訪問国はスペインのバルセロナ。ここに4泊したが、受け入れ態勢が十分に整えられていて、3日間連続の学校訪問となる。幼稚園、小学校、中学校、養護学校といろいろ参観させていただいた。スペイン語には全く馴れが無いので案じていた所、驚いたことに“ここではスペイン語ではなくカタロニヤ語を話すように教育しています”と聞く。バルセロナはカタロニヤ地方の中心都市、10年前フランコの独裁政治が終わると同時に、この地方ではスペイン語をやめてカタロニヤ語を復活させたという。街づくりにもその努力をしているとのこと、強烈な民族意識に心打たれるものを覚えながら、反面、なぜスペイン語という統一言語を避けようとするのか、素朴な疑問も感じた。

学校訪問で印象深いことは、33才の若い女性校長の活気に満ちた学校経営ぶりを参観した事である。学校長は3年毎に選挙で選ぶことになっているという。学校の環境づくりにはアイデアが随所にみられ、特に併設の幼稚園では空間を子供らの楽しい遊び場として工夫されていて示唆に富むものであった。ただ不思議に思ったのは、スペインでは美術や音楽活動が盛んであると伺っていたのに、学校教育では美術教育には力が入っているようであるが音楽の学習環境は極めて乏しく楽器などは殆んどどこも整えられていないことである。日本では1年生から個人持ちの楽器を持って音楽を学んでいるという大変驚かれた様であった。

バルセロナでの見聞は他にもいろいろあるが、特に印象深いこととして2つのことを挙げたい。1つは天才建築家といわれるガウディの遺産について、今1つは巨匠ピカソ美術館のことである。

“今、日本でもガウディブームだそうですね。日本からの観光客が大変ふえています”とガイドさんの話である。その真疑はともかく、ガウディの今に残る“聖家族教会”とグエル公園は心を引きつけ、眺めて飽きないものであった。いずれも未完成のもの、今、ますますその評価が高まっているとのこと。“聖家族教会”

は彼の志（世界は一つの家族なり）を受け継ぎ、設計図に基づいて工事もまた継続されている。この先更に100年とも200年ともいわれている。この遠大な事業を支援するこの街の人々に深く敬意を表する。ゲル公園もガウディが理想として作った未完の街、今は公園になっている。波うつようなセラミックベンチのモザイク模様、彼の人柄や願いがあふれているように感じた。子供の夢の国とでも名付けたい楽しい情景であった。

ピカソ美術館は、この地に彼が青春時代を過ごしたところでその頃の作品が展示されていた。街の通り全体が14世紀そのままの建物で、その間をぬうような細い石だたみの路を行くとそこに特徴ある Picaso の表示が刻まれている。作品はどれも親しみやすいもので、特に色彩の美しさと力強い線描に引きつけられた。ピカソというと直ぐに抽象的な絵と結びつけていた既成概念を抹消させられる。

○西ドイツではミュンヘンに3泊、ニュールンベルクに4泊滞在。ミュンヘン空港で出迎えて下さったガイドのノリコ・シュミットさんの巧みな話に引き込まれ、ここでの視察に心が弾む。特に3日間の演奏会日程を紹介して下さったのでぜひそれを実現したいと願った。到着した日は無理であったがあとの2夜は、運よく入場券を買うことができた。1日目はオペラ、2日目はバレエをあのおペラ座（ナショナルセアター）で観賞することができた。ボストンでのことと併せ終生忘れ得ぬ感激であった。また、ノイエ・ピナコテーク（Neue Pinakothek）で19世紀以後の絵画マネ、ドガ、ゴッホ、セザンヌ、ゴーギャン等の作品をゆっくり観ることができたこともミュンヘンならではの恵まれた機会であった。このような体験を通して、この街の人々の芸術に対する深い理解と教養を思わずにはいられなかった。

ニュールンベルグへは列車で約1時間半、足が地についた楽しい汽車の旅であった。ここでは学校視察が2日間に4校、はじめて独立幼稚園を参観する。市の児童局がもつ最新の幼稚園との事、広大な緑地帯に隣接した交通量の少ない閑静な所にある。二階建であるが階下だけが幼稚園、2階はキンダーフォートといって小学校を終えても家に帰れない留守家庭の子供のための施設となっている。しかし階上との交流は全くない。園舎に入ると廊下を兼ねた広いフロアがあり、じゅうたんが敷かれていて子供の自由な遊び場ともなっている。ここを各グループ（組）の子供の靴やコート整理棚で区切りをつけて小さなまとまりも設けられている。

1つの組には小さなフロアルームと小グループ活動用の部屋、トイレ室とシャワー室、物置が付設されていて設備としては十分なものであった。壁面にははめ込み式のロッカーや整理棚が設けられているが、一見それとは気付かない。掲示スペースとしても活用されてその創意に感心する。開園は7時、閉園は17時、11時半には家に親のいる子供は迎えに来た親と一緒に帰る。それ以外の子供は教師と一緒に食事をして午後も園で過ごすとのこと。給食設備はあるが、いろいろな国の子供達がいるので同じ食事を用意して与えるようなことは不可能であるとのことであった。この国でも移住者への対応が大きな問題のようである。しかし、そのことを至極く当然の対応と受けとめている姿に敬服させられる。

○最後の訪問国はフランスのパリ、期待の街である。しかし実際に行ってみるとあまりにも日本人旅行者が多いのに驚かされると共に何か考えさせられるものがあった。

まず、ルーブル博物館を訪ねる。長い歴史を重ねて今日に伝えられた建物、そして内に蔵された美事な絵画や美術品の数々、嘆声をもらしつつ1時間半の観覧時間に急かされて通り抜ける。せめてゆっくりと写真でもと日本語版の本を求める。（未だ見入る余裕をもたないでいるが）そしてノートルダム寺院を拝観する。荘厳なミサ曲が流れ思わず身じまいを正す。美しいステンドグラスと祭壇に見とれる。翌日はベルサイユ宮殿と印象派美術館を訪ねる。最後の時間はゆっくりと味わって過ごしたいと思ったが、言葉が話せない身では1人歩きもできない。精一杯の冒険は地下鉄を利用して中央広場周辺を散策したことであろうか。

書くべきことが他にもっとあるように思いつつ筆を置きます。

本当によい旅をさせていただきました。顧みて思うことは、ことばのハンディはありましたが、それにしても互いに分かり合おうとすれば意外に通じるものだという実感と、たくさんの人々と心温かなふれあいができたことです。心からお礼と感謝を申し上げます。

▶ 筆者は、昭和60年度国立大学、学部附属学校等教官海外教育事情視察派遣者として、昭和60年10月26日から昭和60年11月19日までの25日間主視察国としてカナダ、スペイン、西ドイツ従視察国としてアメリカ合衆国、フランスへ外国出張されましたので、特に寄稿を御依頼したものです。

職員消息

《改 姓》

工 学 部

事務補佐員 津島みゆき
(旧姓 泉田)

事務補佐員 鈴木 明美
(旧姓 中山)

教 授 後藤 克己

助 教 授 尾島 十郎

《住所変更》

庶 務 部

文部事務官 高尾 邦彦

助 教 授 山口 晴司

人文学部

教 授 梶井 陟

工 学 部

教 授 宇佐美四郎

事務補佐員 津島みゆき

教育学部

学 部 長 野村 昇

事務補佐員 鈴木 明美

助 教 授 木下 資一

教 養 部

助 教 授 石川 義和

助 教 授 丹羽 洋介

理 学 部

助 教 授 関口 健

計 報

富山大学名誉教授 浅岡忠知氏逝去

本学名誉教授浅岡忠知氏は、昭和60年12月3日脳梗塞のため逝去されました。享年76才。

同氏は、昭和8年東北帝国大学理学部化学科を卒業され、株式会社江戸川工業所、大阪大学理学部などを経て、同24年11月富山大学文理学部講師に就任され、同25年4月同学部教授に昇任、同26年4月工学部に配置換え、同49年4月停年により退官されました。

この間、24年の長きにわたり、優れた人材の育成にあたり、数多くの工業技術者を社会に送り出された。

一方、研究面においては、金属ハロゲン化合物触媒の

生成機構の解明とその応用など多数の研究論文を発表され、在来の工業化学に新風をもたらしたものとして高く評価されている。

また、大学の管理運営面において、評議員、附属図書館長を併任し、本学の発展に寄与されました。

以上の功績により、昭和55年11月勲三等瑞宝章が授与されました。

ここに御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

なお、葬儀は12月5日13時から東京都国分寺市の自宅において執り行われました。

主 要 行 事

本 部

- 11月1日 工学部統合移転記念式典・祝賀会
2日 第6回大学案内編集委員会
2～4日 第10回体育祭
3～4日 北陸三県大学学生交歓芸術祭（於 本学）
5日 高等学校と大学との懇談会
6日 昭和60年度東海・北陸地区管理事務協議会（於 豊橋技術科学大学）
7日 第41回東海・北陸地区国立学校等庶務部課長会議（於 豊橋技術科学大学）
7～8日 第67回東海・北陸地区国立大学学生部課長会議（於 岐阜大学）
8日 第26回文部省共済組合北陸地区事務打合せ会（於 富山医科薬科大学）
11日 循環器検診
国立大学入試担当課長会議（於 竹橋会館）
12日 第6回入学試験管理委員会
13～14日 国立大学協会第77回総会（於 学士会館）
第20回東海・北陸地区国立大学事務局長会議（於 名古屋大学）
15日 国立大学協会第44回事務連絡会議

（於 学士会館）

- 第4回補導協議会
第4回授業料等減免選考委員会
第6回学園ニュース編集委員会
16～17日 北陸三県大学学生交歓芸術祭（於 本学）
18日 北陸地区国立学校事務電算化協議会の昭和60年度第21回定例協議会（於 福井大学）
19日 第6回学寮補導委員会
22日 第3回大学院委員会
第9回評議会
庶務係長会議
22～24日 北陸三県大学学生交歓芸術祭（於 本学）
25日 第6回入学者選抜方法研究委員会専門委員会
27日 奨学金返還に関する説明会
29日 第2回国際交流委員会
部課長会議
第6回事務協議会
昭和60年度東海北陸地区国立学校等施設系職員研修会（於 岐阜大学）
北陸地区大学学生部懇談会（於 金城短期大学）

(於 石川県文教会館)

12月
30～1日 北陸三県大学学生交歓芸術祭(於 本学)**人文学部**

- 11月6日 教授会
 11日 循環器検診
 13日 大学院設置準備委員会
 予算委員会
 20日 大学院設置準備委員会
 21日 入学試験改善検討委員会
 22日 事務連絡会
 27日 教授会

教育学部

- 11月
 1～2日 日本教育大学協会北陸地区第一部・第二部
 会合同会議(於 新潟大学教育学部)
 5日 全国国立大学附属学校園副校長会研究会
 (於 松江市)
 6日 学部将来計画委員会
 全国国立大学附属学校管理運営等協議会
 (於 松江市)
 7日 国立大学教育学部長会議(於 竹橋会館)
 7～8日 日本教育大学協会北陸地区第二部会社会科
 研究協議会(於 新潟大学教育学部)
 8日 日本教育大学協会第一部会(於 竹橋会館)
 9～10日 日本教育大学協会北陸地区第二部会教育学
 ・教育心理学・特殊教育・幼児教育部門研
 究協議会(於 金沢大学教育学部)
 12日 循環器検診
 13日 学部教務委員会
 学部入学者選抜方法検討委員会
 教授会
 14日 教育実習運営協議会
 18日 学術講演会(清華大学副教授 楊 根)
 20日 学部職業補導委員会
 22日 附属養護学校教育実践研究会
 27日 人事教授会
 29～30日 日本教育大学協会北陸地区第二部会教育実
 践研究指導部門協議会

経済学部

- 11月6日 各種委員選考委員会
 13日 学部教務委員会
 人事教授会
 教授会
 14日 循環器検診
 21日 秋季国立11大学経済・経営学部長並びに事
 務長会議(於 富丘会館〈東京〉)
 27日 学部教務委員会
 拡大教務委員会
 学部施設整備委員会

理学部

- 11月11日 学科主任会議
 循環器検診
 13日 入学試験改善委員会
 20日 教授会
 理学研究科委員会
 人事教授会
 22日 事務連絡会

工学部

- 11月7日 学部構内交通対策委員会
 11日 学科主任会議
 13日 教授会
 工学研究科委員会
 循環器検診
 15日 北陸信越工業教育協会富山県支部幹事会
 20日 工場運営委員会
 30日 工学部同窓会・温交会共催工学部統合移転
 記念祝賀会(於 富山第一ホテル)

教養部

- 11月6日 教官定員配置検討委員会

夜間主検討委員会	20日	電算化ワーキンググループ打合せ
12日 補導委員会	21～22日	昭和60年度北信越地区国立大学附属図書館事務(部課)長会議(於 長岡技術科学大学)
13日 推薦委員会	22日	電算化ワーキンググループと富士通SEとの打合せ
夜間主検討委員会	26日	第3回附属図書館商議会
人事教授会		
教授会		
14日 循環器検診		
19日 機種選定委員会		
20日 夜間主検討委員会		
教官定員配置検討委員会		
施設整備委員会		
27日 推薦委員会		
人事教授会		
教授会		
30日 夜間主検討委員会		

トリチウム科学センター

11月11日	循環器検診
14日	トリチウム科学センターR・I教育訓練講演会

保健管理センター

11月	
11～14日	循環器検診
13日	第9回全国大学保健管理協会北陸地区保健婦・看護婦班研究会(於 金沢大学)
25～27日	第23回全国学生相談研修会(於 国立教育会館)

附属図書館

11月1日	情報処理センター・図書館・富士通SEとの打合せ
8日	昭和60年度北信越地区国立大学図書館研修会(於 金沢大学)
12日	昭和61年度外国雑誌に関する打合せ(於 金沢大学)
	第4回北信越地区国立大学図書館協議会ネットワーク検討委員会北陸部会(於 金沢大学)
13日	電算化ワーキンググループと富士通SEとの打合せ
14日	循環器検診

経営短期大学部

11月11日	循環器検診
13日	授業料等減免選考委員会
14日	主事候補者選挙教授会

- ◎ 積雪・凍結時の自動車等の運転は、極力取り止めましょう!!
- ◎ 積雪時は、構内除雪の障害とならないよう駐車に注意しましょう!!
- ◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来たさないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!



編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 中央印刷株式会社
富山市下奥井1-4-5
電話 32-6572(代)